

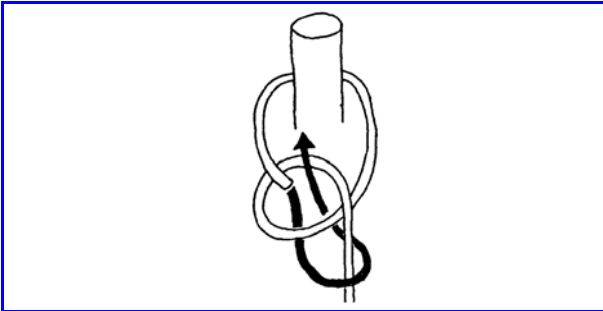
R02-201 ロープワーク その1

Rope Work for Rowing (1)

ボートでもロープワークは大切で、救助活動、艇の係留や運搬などに必要だ。一般情報も豊富な分野なので、ここでは厳選7種を紹介する。中でも下線の5種は、頻度も高い。

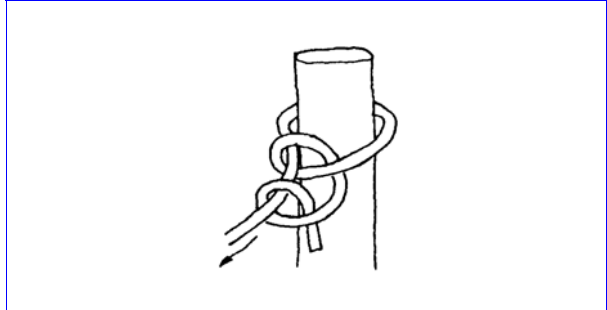
1 舳(もやい)結び Bowline Knot

「ポー(パウ)ラインノット」、「キング・オブ・ノット(結びの王様)」とも、船を「舳う」時の基本。何はなくとも最低限これだけは覚えておこう。輪の中が締まらず、勝手には絶対ほどけず、そしてほどきたいときは簡単にほどける。ロープを体に巻きつけての救助などにも使える。図で、黒く回す部分を、きつく締める必要は無く、たるませておく。身体に結び救助にも使う。



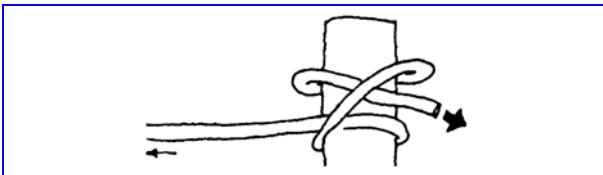
5 ふた結び Two Half Hitch

杭などに仮止めする。引っ張られている限り安定する。



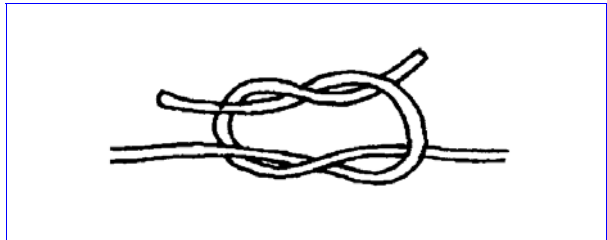
2 巻き結び Cleat Hitch

簡単だが、荷重がかかっている限りは緩まない。クリートで船を舳うときにも応用できる。



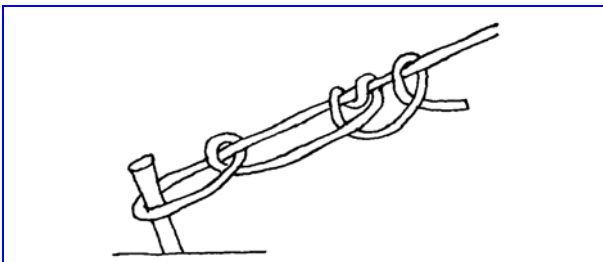
6 本結び Square knot

普通のしぼり方だが、2つめの通し方を最初と逆にする事でしっかり縛ることができることに注意。



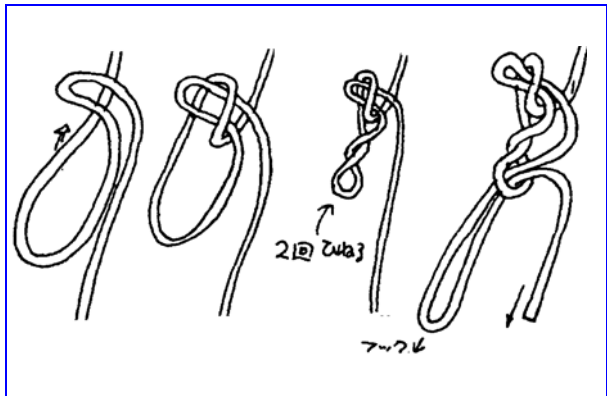
3 自在結び Taut line Hitch

テントのロープ張りなどに使える。長さを自由に調節できる。ラダーロープをバーに結ぶときにもこの方法が使える。



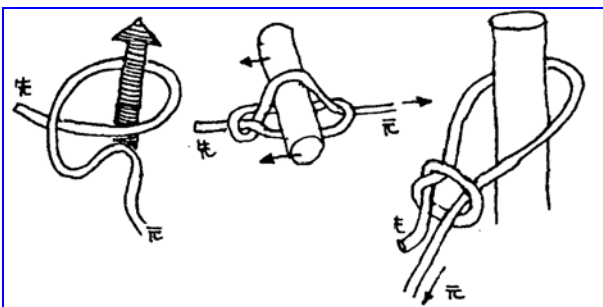
7 南京(なんきん) Wagoner's Hitch, Tracker's Hitch

荷台の荷物を強く縛るときの定番。ねじりの方向に注意。



4 引き解け結び, クローブヒッチ Clove Hitch

ラダーロープにノッカー(タグ)を結ぶ方法。元と先を間違えないこと。



補足: ロープ端は以下の要領。最初の輪の向きに注意。

